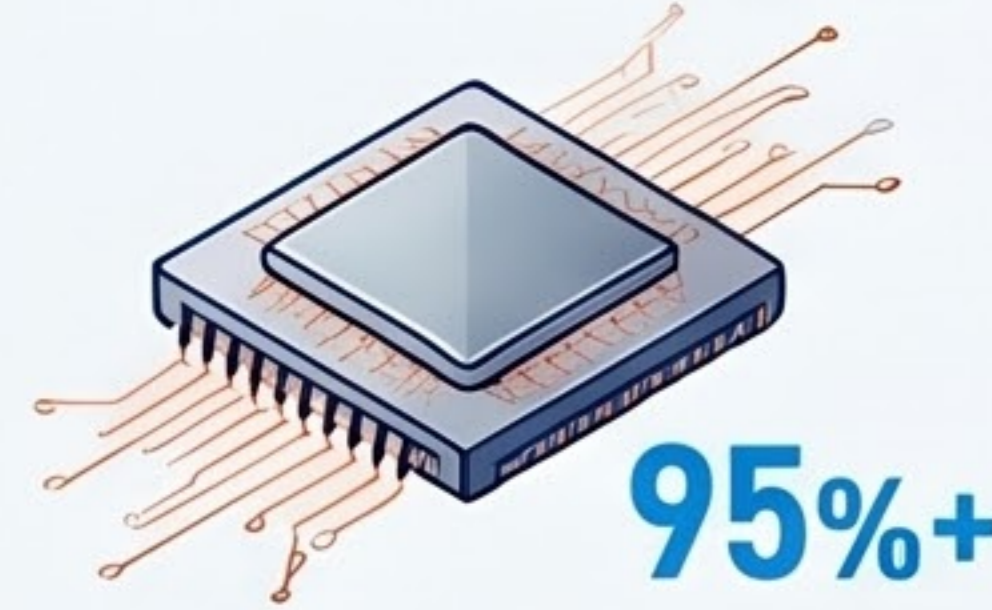


三井金属：知的資本が切り拓く「事業創発カンパニー」への変革

成長を牽引する次世代材料の圧倒的優位性

極薄銅箔「Micro Thin」で
グローバルシェア95%超



95%+

2026年、全固体電池向け固体
電解質「A-SOLiD」の実用化へ



2026-2028

高度な電気化学と界面処理技術により、AIサーバー向けなどの精緻回路形成に不可欠なデファクトスタンダードを確立しています。

主要顧客のロードマップに正式採用され、2027~28年の量産化を目指すなど、次世代EV市場のキーマテリアルとして期待されています。

次世代半導体特殊キャリア
「HRDP」



パッケージ製造プロセスのサイクルタイムを大幅に短縮するプラットフォーム技術として、業界標準となるポテンシャルを秘めています。

イノベーションを加速させる仕組み (DXとオープンイノベーション)

「研究開発期間 1/3モデル」の推進



シミュレーションとDXを活用し、ラボから量産スケールへの移行に伴う不確実性を排除し、開発期間の創的な短縮を目指します。

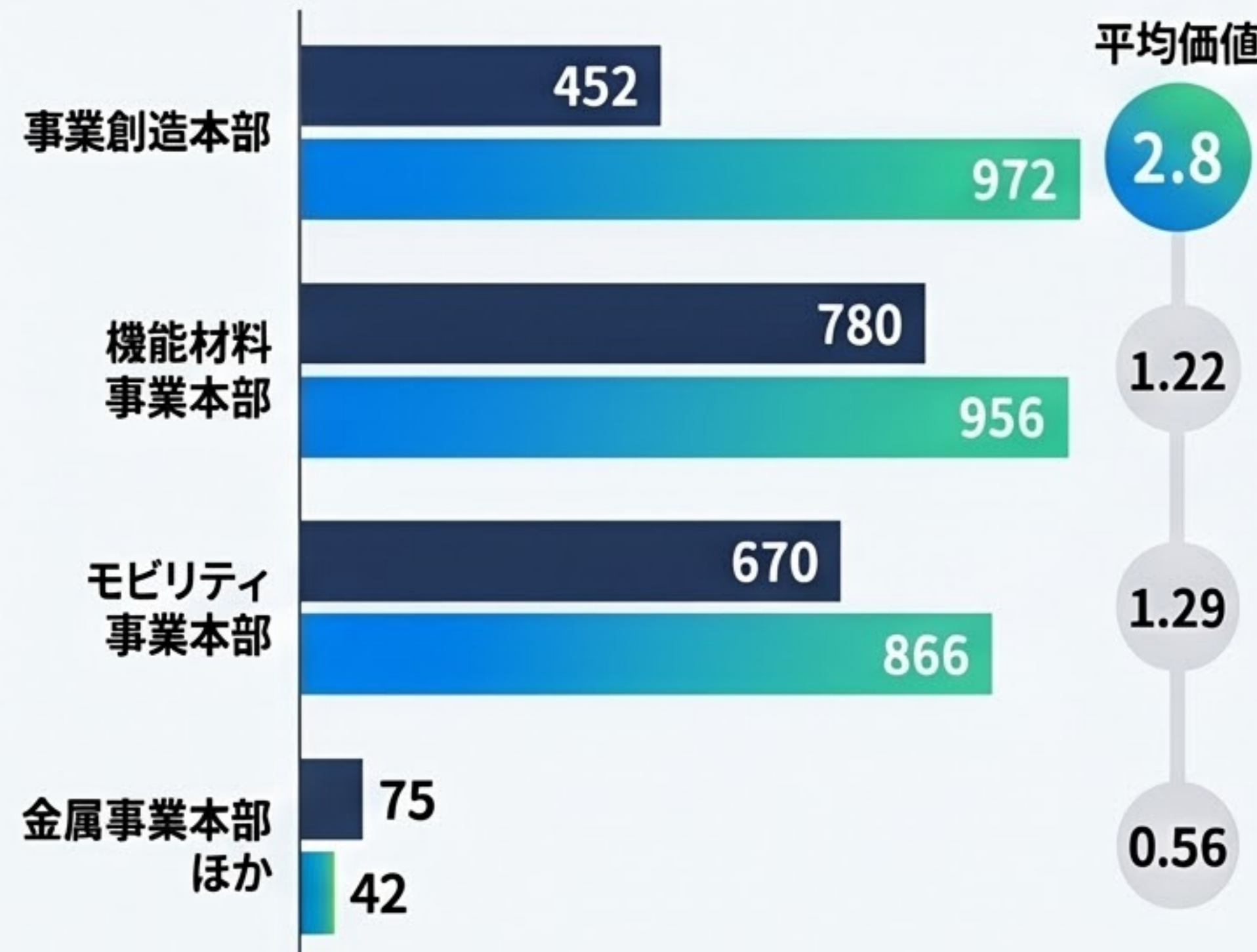
境界を拡張する「オープンイノベーション」



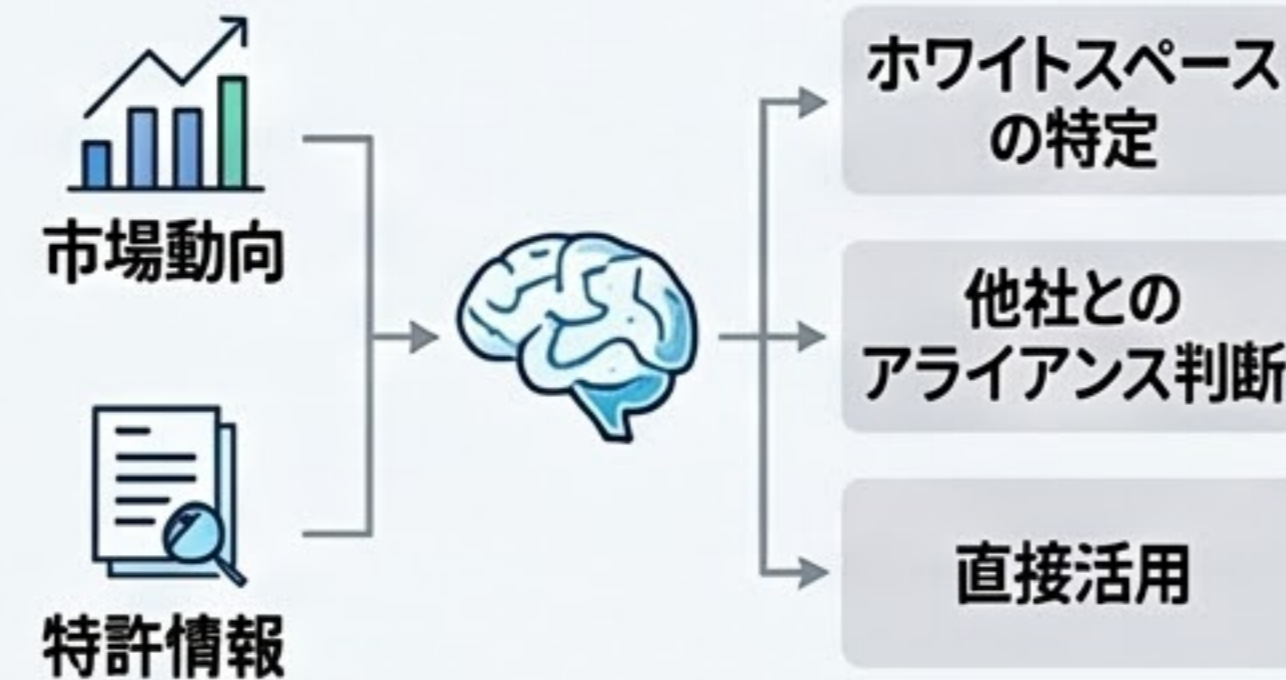
CVCを通じてCO2分譲、枝融合発電、バイオものづくりなどのスタートアップへ出資し、外部の井連続な知見を取り込んでいます。

知的財産の質と「知の探索」の可視化

事業部門別 特許保有件数と特許総資産価値の比較



「IPランドスケープ」による
戦略的R&D



事業創造本部の平均特許価値は「2.8」(全社平均1.5を圧倒)。次世代材料分野において質の高い知的財産が戦略的・集中的に投下されていることを示しています。

非線形な成長に向けた4つの重要課題



品質ガバナンスの抜本的刷新
子会社での不適切行為を受け、デジタルによるプロセス監視と5つの「バリュー(行動憲章)」の道達により怪類の再構築を金んでいます。



パイサイドM&AとPMIの壁
外部の相財・人材を獲得するM&Aにおいて、異なる企業支夫を統合しシナジーを現させる実行協制が決められます。

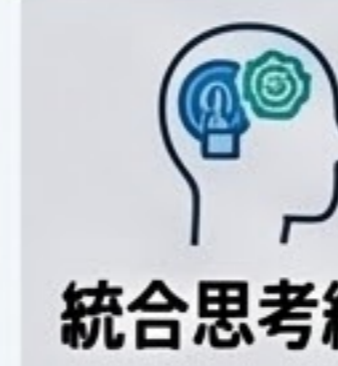


ROIC経営と長期投資のジレンマ
短期的な資本効率 (ROIC Spread) を追求しつつ、リードタイムの長い「物の探案」予算をいかに監域化して論評できるかが鍵となります。



高度専門人材の獲得とリテンション
DXアーキテクトや相財アナリストなどのトップ層を置きつけるため、ジョブ型人牽制や実統な職制体系の構築が不可欠です。

結論：統合思考経営による進化



三井金属は、伝説的な素材産業から、独自の知的資本(特許、技術、組織文化)を装飾とした高付知頼頼な先端テクノロジー企薦へと進化し、経済的廣縁と社会的廣縁を両立させる「統合思考経営」と、新規事薦を拓く「知の探案」および現存技術を深める「知の涵化」を両立させる「両利きの経営」を軸に、井縁形な成長を達げる「事業創発カンパニー」への変革を推進しています。